



所長コメント

毎朝、4時半から、太田川の大芝水門から三篠橋(崇徳高校の前)まで両岸のランニングコースを散歩する。14歳になる老犬を連れて、もう10年以上続けている。

彼が若かった頃は私をぐいぐい引っ張って進んだが、目も耳も衰えてくると、今度は私が彼を引っ張っていく。盲導犬ならぬ盲導人(びと)か。

この散歩の約1時間が私にとっては至福の時だ。人生のこと、仕事のこと、家族のこと、タクティクスの原稿のことなどなど、いろいろ考える。誰にも邪魔されることもなく、一人でマイペースに。

大芝の交通公園あたりのこの位置から広島街を見るのが、私のお気に入りである。真ん中に広島駅前に建設中の52階建てのマンションが見える。広島も多少都会らしくなってきた。この時間でも4月、5月になるとだんだん明るくなってくる。

昨日参列した高校の卒業式で、「これから先、どんなにつらいときがあっても、頑張り続ければ、夜明けの来ない夜はない。」と校長先生が言っていた、確かに。

もうすぐ春、今年の桜の開花予想は早めだ、川土手の桜達やつくしの芽もつらい冬を耐えて、夜が明けるのを待っているようだ。

社長の仕事 税理士 大場史郎

社長のモチベーション

「どうしてここまで頑張らんといけんのんか」と自問自答することがある。

「たった一度の人生、思ったことをやる。」これは私のポリシーだが、たまに疲れることがある。

そんなときに、一生懸命働いてくれている従業員を見ると、私が弱音を吐いたら、眉間にしわをよせたらいけないだと思ひ直す。夢のある会社にしたい。私が何度も日本はこれから人口減少、パイは縮小すると言っているが、これは全体であって、小さなパイを狙う中小企業にとってはいくらでも伸びしろはある。

学生のとき、広大でヨット部にいた。ローカル大学ではあったが、当時は絶頂期で、私の2年先輩は全国優勝、私の代は全国で2位になった。その代わり、勉強はほとんどせず、年間100日は海の上にあった。ゴルフで100を前後する私も、4年間は甲子園を目指す高校生のように必死で取り組んだものだ。何度も悔し涙を流したこともある。でも、本当に全力で取り

組めば、神様は微笑んでくれる、思い通りにいかないのはどこか怠けているからだというのが、その時の経験だし、今もそう思っている。

3月5日にそのヨット部の4年生の追い出しコンパがあった。現役、先輩と肩を組んでヨット部の部歌「怒涛の譜」を歌うと、元気をもらった気がした。

